

「本質的変化と発展的変化」

～タイポロジー。キリストの従順～

ローマ5：1-21

神さまは、先週のメッセージにもありましたが、「前と後ろの守り」を与えてくださるお方です。ですが、私たち自身は、守られていることを忘れてしまいます。出エジプトの民はいつも同じ過ちの繰り返しでした。私たちがこのローマ書から学んでいる理由は、私たちが成長するために、この繰り返す罪を犯してしまわないようにするためです。私たちがそのことを認識していないと、礼拝で何度恵みを受けて帰っても、問題が変わらないのです。なぜならば、私たちの根本が変わらなくても、価値観が変わっていないからです。「自分は間違っていない」「自分は正しい」と思っているからです。この自己義があるから価値観が変わらず、問題も変わらないのです。ですから私たちはもう一度聖書の本質を見ていかなければならないのです。ローマ書に書かれている恵みとは、私たちが正しく、行いがふさわしく救われたのではなく、ただ、イエスキリストが私たちの身代わりに十字架にかかってくださったその恵みによって救われたのだということです。このことが絶えず書かれています。そして私たちは、全ての罪の理由を知って生き方を変えることができる…というのがローマ書の恵みです。私たちの人生でうまくいかない多くの理由が「頭で分かっているけど方法が分からない」です。だから「こうりたい」と願いますが、そのためにどうすればいいのか分からないのです。そしてそれは、私たちが今まで生きてきたプロセスの中で培ってきた発展的価値観になるのです。この「発展的価値観」は良いように聞こえますが、実はそれが私たちの人生がうまくいかなかった理由です。

タイポロジーとは、日本の哲学用語では「類型論」と言われています。たとえば、「昔、こんな生き方をした人がいる。それに対して今、この時代にこんな生き方をしている人がいる」と言ういわゆる「ひな型」を表しています。ローマ書5章には、この類型論…聖書では予型論とよびますが、これが絶えず出てきます。アダムとイエスキリストの人生の比較が書かれています。一人の人によって罪が入ったようにその一人によって罪が贖われたと言うことです。一人の人が同じように一人の人として創られた→アダムは神さまによって創られた。そしてイエスキリストも男女によってではなく神さまによって創られた。そして一人の人が同じように一人の人として罪を犯す→アダムの犯した原罪。何か罪を犯した時、自分を守るための自己中心という大きな罪です。何か罪を犯してしまった時、自分が悪かったところを言うのではなく、なぜ自分がその罪を犯してしまったのかその理由を探る…私たちの心にはいつもこんなものがあります。自分が犯してしまった罪のことはよく分かっている。しかし悪いことよりもなぜその悪いことをしてしまったのかということが私たちに人生の中で大事なテーマになっています。ですから問題が起こってしまうのです。

この世では当たり前のように進化論が教えられています。この環境に適応するために進化を遂げてきた進化論が発展的な物事の見方だからこの世は、問題を発展的価値観で見えてしまいます。物事は絶えず発展的に起きてきたのだと…悪いことがあったからそれを良くするために、良くするために…と変化させる考え方です。しかし神さまは違います！！神さまはこんな考え方で私たちが創られています。でも私たちクリスチャンは、「ちょっとずつ成長する」この発展的信仰を行います。自分が罪人であることをなかなか受け入れられません。聖書の中にパリサイ人と取税人の話があります（ルカ 18:9-14）。サタンが何千年も前に人間に与えようとした最大の呪いは「自分は間違っていない」罪を認めないことです。この世の罪を認められない人々は、なぜ人生で苦勞するのでしょうか？この人々は、罪を認識するより、これを行わないと救われないとルールを決めて、行動した方がラクだから肉体的鍛錬を行ったり難行・苦行をしているのです。これは、罪を認識して神さまを信じる姿ではなく、発展的な成長を見ようとする姿なのです。

①あなたの人生にぶどう酒の奇跡 ～あなたの本質が作り変えられる～

ヨハネの福音書(2:1-12)にカナの婚礼の記述があります。婚礼にはぶどう酒が必要なのですが婚礼の途中でこのぶどう酒がなくなったのです。その時、イエスの母はイエスキリストに「ぶどう酒がありません」と伝えました。するとイエスキリストは母に「あなたはわたしとなんの関係があるのでしょうか。女の方。渡しの際はまだ来ていません」と答えられました。それを聞いたイエスの母は「あの方が言われることをなんでもしてあげてください」と手伝いの人に伝え、この人がその通りにすると、水瓶の水が上等なぶどう酒になったのです。この話から何が伝えたかったのかというと、聖書の中でイエスキリストは神さまの計画の中で物事を成そうとしたその計画は、この水がぶどう酒になる奇跡なのだということです。神さまはアダムとエバの時代から、原罪をもった人間をどう救おうか計画しているのです。これは発展的な救いではなく、本質的な変化をもたらす救いを与えるというものです。水がぶどう酒になることはないのです。でも神さまは「水がぶどう酒になる」と言われたのです。ヨハネの福音書で、ことばであった神が

人間に働いて奇跡をもたらす時、継続的に人間を成長させて救いをもたらすのではなく、「水がぶどう酒になる。しかも最上のものになる」という救いが私たちに起こるのだと言うことをヨハネの福音書の最初の奇跡として記しているのです。すなわち、ヨハネの福音書のこのカナの婚礼の儀式は、信仰によってあなたの汚れた本質が神さまの本質によって完全に作り変えられるというローマ書そのものを示しているのです。人殺しの罪も、ただ嘘をついたという罪も、神の目から見ればその本質は同じ罪だと言っているのです。世間を賑わす殺人事件を見て犯人を裁いていませんか？自分が罪人だと知っていれば、罪を犯してしまった人を裁くことはありません。私たちの心にもこのような殺人を犯す罪があるのです。自分の考えと違う人を見て怒っていませんか？また「まあいいけど」と突き放していませんか？これは殺人と同じです。その人の人生が苦しくなるのが分かっているその人を見放すのは罪です。人は地を従える管理者として創られましたが、その在り方を忘れてしまい、権利ばかりを主張し始めているのです。自分自身で罪を理解し、自分は罪人だと分かれば権利なんて出てきません。自分の義務を果たそうとする時にキリストの奇跡が起こるのです。イエスキリストはアダムとエバが犯し続けた全ての失敗を同じように生きて全部変えたのです。これはイエスキリストにしかできません。だから私たちはイエスキリストによって救われたのです。そしてこの救われた恵みをもって、その全てを行うことはできないけれど、その一部でも成し遂げようとする時に発展がうまれるのです。この救いは全ての人に平等にあって、イエスキリストの恵みによってあるのです。この恵みを受けるには、自分がどれほど罪深いかを理解することです。私たちが救われているか救われていないかは、自分がどれほど罪深いかを分かっているかどうかです。これを知っていれば私たちの本質は変えられます。全ては益とされるのです。

②キリストの従順

③不従順の実【怒り】との戦い ～従順と恵みに生きる決断～

今まで自分の人生がうまくいかなかったのは、聖書の生き方と真逆だったからです。そして知らなければならぬことを「分からない」と知ろうとしないのです。神さまの価値観ではなく自分の価値観で物事を行おうとしてしまうのです。その時の実を見てみてください。もし、自分が正しいのであれば自分の家族も周囲の人々もみんな豊かになっていくでしょう。そうならないのなら、自分の方法は間違っているのです。だから神さまは自分の方法ではないものを教えてくれています。神さまはその人の本質に導こうとするので、人それぞれでその方法は違います。私たちが成すべきことは、他人と比較するのではなく、小さいことに忠実に・大きなことにも従順であることです。もし自分に任されたことが自分にとっては小さなことに思えても、それを大事にしなければいけません。自分にとってイヤなことをどれだけ忠実に行うかが大切なのです。神さまは小さいことに忠実なものに大きなことを任せると言いました。だからイエスキリストは小さなこと一つ一つに従順に生きる姿を私たちに示されました。イエスキリストは死を目前にしても従順でした。イエスキリストはゲッセマネで「どうぞこの杯を私から取りのけてください。しかし私の願うところではなく、あなたの御心のままを、なさってください」と祈ったのです。このような祈りができますか？私たちが小さいことに忠実にできれば、神さまがごこというとても大事な時神に忠実に行うことができ、御心を成すことができます。イエスキリストは、一切の権利など主張することなくほふり場に連れて行かれる子羊のように何も言わずに忠実に従われたのです。このことがローマ書に書かれています。5:17に「もしひとりばりの違反により、ひとりによって死が支配するようになったら、なおおさること、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりイエス・キリストにより、いのちにあつて支配するのです」とあります。私たちが、イエスキリストによって支配されれば私たちの人生は変えられます。誰があなたを支配していますか？ですから不従順の実【怒り】と戦わなければなりません。怒りは過去からほとんどは思い込みから生じさせます。ですが、神さまはどんな過去があってもカナの婚礼のように奇跡を起こしてください。どんな人でも最高のぶどう酒のように作り変えられるのです。予定では見えない、そうなると思えないけれど、私たちが従順に怒りを殺して忍耐強く生きるなら寝られた品性が生み出されます。ローマ書5章を大切にしてください。失敗した人・正しく生きた人の人生が書かれています。そして私たちの人生が変えられるのです。だから私たちに恵みは充分なのです。あとは自分が従うかどうかです。決断していきましょう。

(要約者:行司 佳世)

(2019年6月2日)